

令和4年度 原子力科学研究所総合訓練で抽出した課題と対策について

1. はじめに

令和5年2月21日に実施した原子力科学研究所総合訓練の結果を踏まえ、課題を抽出し、対策の検討を行った。対策については、次年度の訓練で改善状況を確認する。

2. 改善検討の進め方

機構内外からのコメント（訓練評価者による評価結果、訓練後の振り返り、アンケート等）から本訓練における課題を抽出した。抽出した課題について原因分析を行い、対策を立案した。

また、訓練目的や達成目標を踏まえ、重要度が高いと判断した課題を「主な改善事項」とし、訓練で抽出した具体的な問題点を含めて整理した。主な改善事項は、次の2項目である。

- (1) 複数拠点からの視覚情報を用いた情報共有
- (2) 発災施設からのプラント情報の現地対策本部内での情報共有

3. 主な改善事項

(1) 複数拠点からの視覚情報を用いた情報共有

【問題点】

拠点からの書画装置を用いた視覚情報の共有において、複数拠点での発災の場合に、何処の拠点の情報を共有しているのかが分かりづらい。

【課題】

即応センターへの説明において、何処の拠点の説明資料かが視覚的に分かりづらかった。

【原因】

拠点から書画装置を用いた視覚情報を共有する場合は、資料にも画面上にも拠点名称が表示されていない。

【対策】

拠点側の書画装置の背景に拠点名を表示する。

(2) 発災施設からのプラント情報の現地対策本部内での情報共有

【問題点】

JRR-3のプラントデータ（原子炉出力、冷却材温度、原子炉プール水位）について、現地対策本部内における定常的な情報共有が少なかった。

【課題】

JRR-3のプラントデータについては、事故現場指揮所からのFAXにより現地対策本部に情報発信されていたが、現地対策本部内では十分に共有されなかった。

【原因】

JRR-3からのFAXによるプラントデータの提供については、現地対策本部情報班で受信し、現地対策本部内にコピーしたもので共有を図っていたが、他の情報に埋もれてしまって定常的な情報共有ができなかった。

【対策】

今後、発災施設からのプラント情報については、情報班がFAX受信後に「プラント情報」であることを明記して配布するとともに、専用のホワイトボードに掲示することにより現地対策本部内で共有することにする。

4. その他の改善事項

No.	課題区分	課題	原因	対策
1	情報共有	JRR-3における負傷者の発生について、身分、所属、氏名、年齢等の情報の確認及び報告が不十分であった。	現地対策本部情報班では、負傷者発生時の情報収集において、どのような情報を収集し報告すべきかの認識が薄かった。	現地対策本部情報班に対して、現場からの情報については、「初動連絡チェックシート」を用いて、事象に応じて必要な情報を収集することを再教育するとともに、今後の訓練を通じて習熟を図っていく。

以上